

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	基山町立若基小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>最終評価では、全項目について、A評価であり、取り組みの成果が出ている。</li> <li>教師の指導力を向上させ、個に応じたきめ細かな授業改善による学力向上が望まれる。</li> </ul>
2 学校教育目標	<p>きたえ やりぬき まなびあう</p> <p>元気いっぱい 自分から学び 共に高めあう子供</p>
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>表現活動の充実</li> <li>早寝・早起き・朝ごはん、外遊び</li> </ul>

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者
(1) 共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師85%以上	・校内研究等でマイプランを共有するとともに、授業改善の指標の一つとする。	A	「学力向上シートに示したマイプランを、毎日の授業づくりの中で実践し、学力向上に努めているか」の問いに対して、「そう思う44.4%、大体そう思う44.4%」の回答であった。今後は、全校内研究とも関連させて、職員の更なる取り組みを目指す。	A	「学力向上シートに示したマイプランを、学力向上の研修会等で共有し、授業改善に努めた」と回答した教師は89.5%。県調査においては、4～6年の全教科の正答率で県平均を上回る結果となった。校内研究とも関連させ、授業づくりの共通理解が授業改善につながったと考える。	A	・本年度の重点目標である表現活動については、全ての職員が全ての授業で取り組んでいることが分かった。 ・職員がみんなで、同じ目標で取り組んでおり、子供たちの学力向上につながっていると考える。	・学力向上コーディネーター ・研究主任
	○タブレット端末を活用した授業づくり	○「タブレット端末を活用した授業はたくさんの方が学べる」の質問に対して、肯定的な回答をした児童の割合が80%以上	・タブレット端末を活用した授業作りの研修会を設ける。	B	「タブレットを使った学習では、たくさんの方を学べるか」という問いに対して、「そう思う61.3%、大体そう思う28.6%」という児童の回答であった。児童は、タブレットを用いた学習で、学習の効果を感しているようである。 ・研修会については、ICT教育担当を中心に、定期的に行われており、得た知識や技能は、積極的に授業で活用している。更なる活用について研鑽を積んでいく。	A	「タブレットを使った学習では、たくさんの方を学べる」と回答した児童は91.5%。授業の活用に取り組んでいると回答した教師は78.9%。タブレットを用いることで、児童は、学習に対して意欲的になり、調べ学習、学び合い等多くの場面での効果を感じることができたと考える。 ・ICT教育担当を中心に、全体での研修、個別の研修等を行った。職員の知識や技能は確実に向上している。	A	・タブレットは、職員の研修の成果でその活用が学習に効果を出していることが分かった。 ・特別支援学級の子供たちにも効果的に活用されていると分かった。今後も、積極的に活用してほしい。	・学力向上コーディネーター ・ICT推進リーダー ・研究主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて、肯定的な回答をした児童80%以上	・道徳の授業づくりに関する校内研修を実施する。 ・道徳アンケートを実施する。 ・人権集会を実施する。	A	「道徳の授業ではよりよく生きることについて真剣に考えているか」という問いに対し、肯定的な回答をした児童は88.4%だった。「道徳で学んだことを生かして、よりよい学校生活を送ろう」という問いに対して、肯定的な回答をした児童は91.4%だった。 ・児童が他者への思いやりを感じ、深める道徳教育を行っているか」の問いに対して、肯定的な回答をした教師は94.4%であった。道徳の授業を通して、豊かな心を身に付ける教育活動を継続していく。	A	「道徳の授業ではよりよく生きることについて真剣に考えているか」という問いに対し、肯定的な回答をした児童は92.5%だった。中間よりも伸びている。しかし、「道徳で学んだことを生かして、よりよい学校生活を送ろう」という問いに対して、肯定的な回答をした児童は88.3%で中間より下がってしまった。 ・児童が他者への思いやりを感じ、深める道徳教育を行っているか」の問いに対して、肯定的な回答をした教師は94.4%であった。道徳の授業を通して、豊かな心を身に付ける教育活動を継続していく。	A	・子供たちが、道徳の授業を通して、思いやりや社会性など豊かな心を育んでいることが分かった。教科になって授業づくりも難しいようだが、子供たちが真剣に考えていると分かった。学校だけでなく、家庭や地域全体でも子供の心を育んでいきたい。	・道徳教育推進教師 ・人権・同和教育担当 ・各学年主任
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめの未然防止、早期発見、早期対応のための組織的対応ができていると回答した教師が95%以上	・いじめアンケートを実施する。 ・気になる児童の情報共有や教育相談研修会を行う。 ・いじめ対応についての研修会を年間1回以上行う。	B	・年2回のいじめアンケートの他に、毎月1回にこのアンケート(いじめアンケート)を実施した。「学校全体としていじめの未然防止や早期発見のために組織的な対応ができているか」という問いに対して、「そう思う50%、大体そう思う44.4%」という職員の回答であった。今後は、「そう思うが70%以上になるように、組織的に対応していきたい」。	A	・年2回のいじめアンケート、毎月1回の学校生活アンケートを実施した。学校全体として、いじめに対し、組織的な対応ができていると回答した教師は「そう思う52.0%、大体そう思う47.4%」だった。「そう思う」の割合は高まったが、中間の目標だった70%には届いていない。いじめに対する研修会を年2回実施し、毎月、児童理解の場を設けている。また、学校全体での保護者対応に心掛けている。	A	・いじめや友達トラブル等について、担任一人で抱え込まずに、すぐに管理職に相談し、学校全体で対応していると分かり、安心した。 ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、医療機関など、多くの外部機関とつながり、早い対応をしていることが分かった。	・生徒指導担当 ・教育相談主任
	◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童(6年生)80%以上	・学習の振り返りを行うことで、自分の力の伸びを実感させる。 ・各種体験活動において、振り返りを行うことで、自分のよさを実感させる。	B	「将来の夢や目標を持っているか」という問いに対して、「はい72.4%、まあまあ13.1%」という児童の回答であった。6年生は、77%が肯定的な回答であった。 ・「運動会や集会などの学校行事で、自分ががんばったことをいえるか」という問いに対して、肯定的な回答をした児童は86.9%であった。運動会や集会活動など、コロナ禍で限られた活動の中でも、自分のよさに気付いている児童が多い。さらに、「人の役にたつことへの体験を積ませたい」。	A	・児童が自分のよさや伸びを実感する学習の振り返りを行っていることと回答した教師は94.7%。将来の夢や目標を持っていると回答した児童は84.9%で中間より下がった結果だった。6年生は83.8%であった。 ・学習や活動を振り返り、自分のよさ、力の伸び、次への意欲を高めるように学校全体で取り組んでいる。	A	・児童のアンケート結果と、保護者の結果には、多少のずれがある。おそらく、保護者は現実的に物事を考え、子供は目標やがんばっている過程も評価しているのではないかと。 ・「将来の夢」という言葉に流され、自分の目の前の目標の達成について回答していないのかもしれない。来年度は、質問の文言を変えてみてはどうか。	・特別活動主任 ・教務主任
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」	○早寝(上学年は22時まで、下学年は21時30分までに就寝)・早起き(7時までに起床)・朝ご飯(食事内容を問わない)・運動(1日合計1時間以上)を達成した児童が85%以上	・学期に1回生活習慣チェックを行う。 ・学校だけでなく保健だよりなどを発行し、規則正しい生活習慣の大切さ(特に睡眠について)を児童・家庭に伝える。	B	・職員のアンケートより、「早寝・早起き・朝ごはん」の推進に向けて、児童への指導及び保護者への周知は、100%できている。児童のアンケートより、肯定的な回答は、早寝78.9%、早起き94.4%、朝食96.2%、運動79.9%であり、指導を続ける必要がある。 ・睡眠については、養護教諭が全児童に指導をした。今後は、懇談会や学校行事等で保護者への周知を図っていく。	A	・職員のアンケートより、「早寝・早起き・朝ごはん」の推進に向けて、児童への指導及び保護者への周知は、100%できている。児童のアンケートより肯定的な回答は、早寝72%、早起き93%、朝食95.4%、運動76.4%であり、中間評価よりも低い結果となった。特に早寝については、今後も家庭と協力して、指導を続ける必要がある。 ・睡眠については、養護教諭を中心に、全児童への指導及び、保健だより等で保護者への周知を図っている。	A	・子供たちの生活は、やはり家庭の問題がおおきい。学校から指導や周知だけでは、うまくいかないこともあるだろう。 ・早起きに関して、「7時までに起きる」は、遅くないだろうか。来年度は、この時刻の設定を変えることも検討した方がよいのではないかと。	・食育担当 ・体育主任 ・養護教諭
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・昨年度の反省を生かし、各種行事の実施方法の見直しを行う。 ・特別支援教育に関する研修を実施し、全職員の専門性を高める。 ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携を深め、職員間での情報共有を徹底する。	B	・職員に対する働き方改革のアンケートより、77.7%は肯定的な回答であった。 ・定時退勤日(金曜日)17:30の厳守及び通常施設18:30の徹底を図る。 ・職員会議等で勤務実態の共有を図り、業務改善の意識を高める。	B	・職員に対する働き方改革のアンケートより、77.7%は肯定的な回答であった。 ・定時退勤日(金曜日)17:30の厳守及び通常施設18:30の徹底については、まだ不十分で、今後、各自のタイムマネジメントも必要になるだろう。 ・毎月、職員会議等で勤務実態についての共有を図っているが、さらに、学校行事等の見直しも必要である。	B	・働き方改革は、積極的に進んでいると思う。教員の勤務時間等知らないことが多い。もっと保護者や地域へ発信してもよい。 ・定時退勤の徹底が不十分なのは、どのようなことが原因になっているのか、分析が必要であろう。教師の仕事は終わりがないので、難しいことだと感じる。	・管理職
(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○特別支援教育の充実【特別支援教育部】	○児童一人一人の能力を伸ばし、多様な交流を通して、互いに認め合い、高め合う仲間集団の育成	○教師の特別支援教育に関する専門性が向上したと答えた教員85%以上	・合理的配慮を意識した指導内容・方法の改善を行う。 ・特別支援教育に関する研修を実施し、全職員の専門性を高める。 ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携を深め、職員間での情報共有を徹底する。	A	「特別支援教育に対する専門性が向上したか」という問いに対して、100%肯定的な回答であった。 ・夏休みの研修、教育センター講座の受講など、全職員が専門性を高める研鑽を積んでいる。 ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携を深め、必要に応じてケース会議を持ち、情報共有を徹底している。	B	「特別支援教育に対する専門性が向上したか」という問いに対して、最終的に肯定的な回答は89.5%であった。夏休み以外の定期的な研修の機会を設定し、研鑽を積む必要がある。 ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携し、職員間での情報共有をすることはできた。	B	・本校が抱える特別支援教育の課題が分かった。通常学級の中にも配慮を要する児童は1割程度に達している。今後は、全ての教員が、特別支援教育に対する専門性を身に付けることが必要になってくるだろう。 ・特別支援担当教員に具体的な支援の仕方を紹介してもらった場を定期的に設定してはどうか。 ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、医療機関等と連携が取れていることは、とてもよいと思う。	・特別支援コーディネーター ・教育相談担当 ・教頭
5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育</li> <li>・学力向上、心の教育、健康・体づくりの項目において、目標を達成し、A評価となった。</li> <li>・本年度の重点目標については、全職員で取り組んだ。校内研究とも関連させ、目標を達成できた。</li> <li>・特別支援教育については、来年度も引き続き全員で研修をし、研鑽を積んでいきたい。</li> </ul>									